
「婦人科手術における術式別の術後悪心・嘔吐（PONV）発生状況と関連要因の検討 —開腹・腹腔鏡・ロボット支援下手術の比較—」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの診療記録（カルテ）の情報をういた以下の研究を実施いたします。本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2022年9月1日から2026年3月31日の期間に埼玉医科大学総合医療センター 産婦人科において、全身麻酔で手術を受けられた患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

手術の後に起こる「吐き気」や「嘔吐」は、多くの患者さんが経験する不快な症状です。

本研究では、婦人科の手術（開腹手術、腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術）を受けた患者さんを対象に、手術の方法によって吐き気や嘔吐の起こりやすさにどのような違いがあるのか、またどのような要因が関係しているのかを詳しく調査します。

この研究で得られた結果は、手術後の適切な予防法や看護ケアの充実に役立てられます。

3. 研究期間

病院長の許可後～2029年3月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2026年7月10日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

本研究では、以下の診療情報を使用します。

患者さんの背景として、年齢、身長、体重、喫煙歴、過去の病気、これまでの吐き気や乗り物酔いの経験、使用したお薬の内容などを使用します。

手術や麻酔に関する情報として、手術の種類、手術時間、麻酔の時間、手術中の体位、使用した麻酔薬の量などを使用します。

手術後の経過として、吐き気や嘔吐の有無と程度、痛み止めの使用状況、お水を飲んだり歩いたりし始めた時期などを使用します。

※この研究で得られた患者さんの情報は、【埼玉医科大学総合医療センター】において、研究責任者である程島 恵が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

対象となる患者さんの診療記録（カルテ）から、必要な情報を収集します。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 中央手術部 看護師 主任 程島 恵（研究責任者）
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 中央手術部 看護師 師長 大森 友湖（研究分担者）
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 中央手術部 看護師 伊藤 菜々美（研究分担者）
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 中央手術部 看護師 千葉 玲奈（研究分担者）
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 中央手術部 看護師 屋代 七海（研究分担者）
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 中央手術部 看護師 赤池 萌夢（研究分担者）
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 産婦人科 教授 松永 茂剛（研究分担者）
- ・ 埼玉医科大学総合医療センター 麻酔科 教授 小幡 英章（研究分担者）

4. 試料・情報の管理責任者

【埼玉医科大学総合医療センター】 病院長 別宮 好文

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学総合医療センター 中央手術部 程島恵（ほどしま めぐみ）

住所：〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981 番地

電話：049-228-3525（土日祝日を除く 8 時～17 時）

○研究課題名：婦人科手術における術式別の術後悪心・嘔吐（PONV）発生状況と関連要因の検討 ― 開腹・腹腔鏡・ロボット支援下手術の比較―

○研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター 中央手術部 看護師 程島恵